

科目名		経営財務論Ⅱ (Financial Management Ⅱ)							
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第4学年	経営情報学科	学修	1単位	必修	講義	後期 100分/週	45時間		
担当教員		【常勤】 田川 晋也 tagawa@ube-k.ac.jp							
<b>学習到達目標</b>									
科目の到達目標レベル	財務上の意思決定は、資金の調達・運用・配分に大別される。本講義では、その意思決定のメカニズムについての基礎理論を解説する。								
学習・教育目標	(C)①	JABEE基準1(2)			(d)-(f)				
<b>関連科目、教科書および補助教材</b>									
関連科目	経済学Ⅰ・Ⅱ、財務会計論Ⅰ・Ⅱ、経営財務論Ⅰ								
教科書	「1からのファイナンス」 榎原茂樹著 (碩学会)								
補助教材等	プリント(演習問題)								
<b>達成度評価 (%)</b>									
ファイナンスの理論上の問題点を理解できる。								40	
ファイナンス実務上の問題点を理解できる。								40	
ファイナンス上問題となっている論点に文書で説明できる。								20	
評価方法	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
指標と評価割合									
総合評価割合	40	40		20					100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎		◎					
思考・推論・創造への適用力 【適用、分析レベル】	○	○		○					
汎用的技能 【論理的思考力】	○	○		○					
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と創造的思考力 【 】									
<b>学習上の留意点，学習上の助言</b>									
経営財務論は、数式を用いることが多いので、数列、微分積分などの必要な数学の知識は確認しておくこと。									

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	0 ガイダンス 1 ペイアウト政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。</li> <li>・MMの配当無関連性命題を理解できる。</li> <li>・自社株買いの無関連性命題を理解できる。</li> <li>・配当と自社株の真患なリング効果について理解できる。</li> </ul>	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
2			
3			
4	2 ポートフォリオ理論とCAPM	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分散投資のリターンとリスクを理解できる。</li> <li>・ポートフォリオ効果について理解できる。</li> <li>・効率的ポートフォリオについて理解できる。</li> <li>・資本市場線について理解できる。</li> <li>・<math>\beta</math> 値について理解できる。</li> <li>・証券市場線について理解できる。</li> </ul>	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
5			
6			
7			
8	中間試験		
9	答案返却・解答解説 3 企業価値と株式価値の評価 4 合併・買収	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。</li> <li>・企業価値の算定モデルについて説明できる。</li> <li>・将来キャッシュフローの価値について理解できる。</li> <li>・配当割引モデルについて理解できる。</li> <li>・M&amp;Aの事例、動機について説明できる。</li> <li>・買収価格について説明できる。</li> </ul>	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
10			
11			
12	5 債券価値の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・債券価格の決め方について理解できる。</li> <li>・債券の信用リスクについて理解できる。</li> <li>・債券の利回り計算ができる。</li> </ul>	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
13			
14			
	期末試験		
15	答案返却・解答解説 授業改善アンケートの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。</li> </ul>	
総学習時間数			45時間
講義			25時間
自学自習			20時間